

稲作農家 各位

# 山武稲作情報 第6報(2016年7月29日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

## 山武地域の生育状況

水稻の生育は、4月中に移植したほ場ではやや早く、5月中旬移植はやや遅くなっており、移植時期による差が大きくなっています。特に4月移植の早生品種は、収穫時期が平年より早くなることが予想されますので、収穫に向けて万全の準備をお願いします。

今年のカメムシの発生量は、昨年よりも多い傾向です。特に、周囲と生育ステージが異なるほ場では被害が出やすいので、適切な防除を行いましょう。

### 参考 生育調査ほの調査結果

【主食用米】 平年値は過去10年間（東金市コシヒカリは9年間、ふさのもちは6年間）の平均値。

品種	場所	年	移植日	幼穂形成期	出穂期	成熟期
ふさおとめ	山武市 (白幡)	28	4/30	6/20	7/15	(8/17)
		27	4/27	6/14	7/13	8/16
		平年値	4/28	6/19	7/13	8/18
ふさこがね	山武市 (成東)	28	4/26	6/18	7/12	(8/18)
		27	5/1	6/18	7/15	8/20
		平年値	5/1	6/24	7/18	8/24
コシヒカリ	東金市 (北之 幸谷)	28	4/22	6/24	7/19	(8/26)
		27	4/25	6/17	7/16	8/23
		平年値	4/23	6/27	7/22	8/28
コシヒカリ	山武市 (成東)	28	4/26	6/24	7/20	(8/27)
		27	5/1	6/24	7/21	8/28
		平年値	5/1	6/29	7/25	9/1
ふさのもち	山武市 (成東)	28	5/10	6/30	7/26	(9/1)
		27	5/11	7/1	7/24	8/31
		平年値	5/9	7/3	7/27	9/2

### 【飼料用米】

品種	場所	年	移植日	幼穂形成期	出穂期	成熟期
アキヒカリ	山武市	28	4/26	6/14	7/10	(8/12)
初星	東金市	28	4/26	6/28	7/24	(8/28)
夢あおば	山武市	28	5/10	6/30	7/25	(9/7)

飼料用米は成熟期以降、1週間以内に収穫してください。

幼穂形成期は幼穂長 1mm 以上の稲が80%以上となった日。出穂期はほ場の40~50%が出穂した日。

成熟期欄の( )は今年度の推定日。

### 郵便で配信している方へお願い

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXへ切り替えを進めています。電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 水鳥 k.mztr@pref.chiba.lg.jp、0475-54-0226（電話）

今年度の稲作情報は今回が最後です。来年度、稲作情報が不要な方はご連絡ください。

## 1 スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の冬期防除

今年度は、各地でスクミリングガイが多く発生しました。収穫後に防除を行い、来年度の被害を軽減させましょう。

作業時期	方法	備考
9～10月 (収穫後)	湛水状態(湛水深5cm)を3～4日続け、貝が活動を始めたなら石灰窒素を20～30kg/10a散布し、5～6日湛水状態で放置してから自然減水させる。	水温が15℃以上の時期に実施。 翌春の施肥設計に注意する。 石灰窒素は魚介類に影響するので、河川などに流出、飛散しないよう注意。
1～2月	田面を乾かし、厳寒期に耕起することで越冬中の貝を寒気にさらしたり、破壊して殺す。	耕起時には走行速度を遅くし、回転数を早くする。浅く細かく耕すと貝が破壊される。数回耕起すると効果が高い。
10～3月	越冬場所である用排水路の泥上げ、雑草除去、水田の不要な水の落水を行い、生息場所をなくす。	地区全体で実施すると効果が高い。

### 最初の入水時の侵入を防ぎましょう！！

冬季に用水路で越冬した貝は、特に最初の入水時に多くほ場に侵入します。5mm以下の網やネットを取水口に設置し、ほ場に入れないようにしましょう。

## 2 収穫後のほ場管理

収穫後の早い時期から、来年度の稲作に向けたほ場の管理を行いましょう。

### (1) ワラのすき込み

ワラは、田にいる微生物により分解されます。この分解には①温度、②空気、③窒素が必要となるため、以下のように行うと有効です。

- ①気温の高い、稲刈り後できるだけ早い時期に行う。
- ②空気が必要のため、浅くワラが土に刺さるくらいに行う。
- ③窒素を補給するため、石灰窒素10～15kg/10a散布してから行う。

また、2番穂はイノシシのエサとなります。イノシシの被害を増加させないためにも、イノシシ目撃情報のある地域では早めに耕起をしましょう。

### (2) 雑草防除

多年生雑草（クログワイ、コウキヤガラ、ミズガヤツリ、オモダカ、セリ、ホタルイ）は9月頃から地下茎や塊茎を作ります。そのため、早めの耕起により、地下茎や塊茎の発生を減少させることができます。また、塊茎等は冬の寒さに弱いため、耕うんによって田の表面に出すと、来年の発生が大幅に減ります。

多年生雑草やキシウスズメノヒエ類の対策には、ラウンドアップマックスロード等の茎葉処理剤の散布を稲刈り後早めに行うことも有効です。この除草剤は、成分が茎葉から入り根まで枯らすため、成分を雑草の根まで届けるために、雑草の生育期間中に薬剤を散布する必要があります。

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>